

Top interview

皆さまには、希望に満ちた平成24年の新春を健やかに迎え、心からお慶び申し上げます。日ごろは、御前崎市政に対し格段のご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

困難を乗り越える 日本人の強さ実感

昨年は、自然災害の猛威を思い知らされた一年でした。千年に1度といわれる東日本大震災は、東北地方に甚大な被害をもたらしました。福島第一原子力発電所では放射能漏れ事故で憂慮すべき事態が発生し、いまだに多くの住民が避難生活を余儀なくされている状態です。

そのような中、被災地では、被災者がお互い支えあって困難を乗り越えようと額に汗して頑張っている姿が見受けられました。その姿に、家族や地域の絆、精神力の強さを感じました。

また、被災地の復興、支援のために「がんばろう 日本」を合言葉に、多くの国民が心を一つに支援の手を差し伸べたことに心温まる思いがいたしました。

発想を転換 ピンチを好機に

地方経済は、長引く円高、株安により企業の生産活動を停滞させています。さらに、不安定な雇用状況は地域経済の発展を妨げるばかりか、市民生活さえも脅かしております。一日も早い経済の回復を願わずにはいられません。福島原発事故の風評被害による地場産業への影響、浜岡原発の全原子炉停止による雇用不安など、本市を取り巻く環境も一層厳しさを増しております。こうした状況でこそ、今できることに全力を尽くし、来るべきチャンスに最大限のパフォーマンスを発揮できるように備えておくことが必要です。本年をチャンスの一年と捉え、市民一丸となり大きく飛躍する年としなければならぬと感じております。

重点港湾として活用が期待される御前崎港。東名高速道路と港のアクセス道路として利便性が向上した国道473号バイパス。開港3年目を迎えた富士山静岡空港。平成24年度には一部供用開始される新東名高速道路など、陸・海・

空の交通インフラが整い、本市を含めた周辺地域は、今後ますます発展していく可能性があります。期待しております。

行政、企業、団体、市民が一体となって、地元企業への支援、企業誘致、観光誘客による財政基盤の強化、地場産業の育成などを進めていく必要があります。特に、当市発展の鍵となる御前崎港は、国際貿易港として東南アジア、インド・パキスタン航路に加え、昨年、中国航路、韓国航路が加わり、外貿定期コンテナ航路は3航路体制となりました。わが国有数の産業集積を誇る県中西部地域の物流拠点として、県西部を中心に、県内、中部圏域と徐々にエリアを広げながらポートセールス活動を進めてまいります。

東日本大震災や福島原発事故により、当市を訪れる観光客にも影響がありました。本年は、魅力あふれる観光地として再スタートを切るため、御前崎灯台周辺や県農業試験場海岸砂地分場跡地を活用した農業振興拠点施設を核として、人・自然・産業・地域が共生するまちづくりを進めてまいります。

主役は市民 全員でまちづくり

御前崎市も合併から8年目を迎え、市民の融和や一体感が感じられるようになりました。「主役は市民」、「行政は脇役」です。今後も知恵を出し合い、創意工夫して財源を確保し、自分たちのまちは自分たちで創るという「自立したまちづくり」を市民の皆さまと一緒に推進していきたいと考えております。

今年「辰年」です。昨年11月に来日したワンチュク・ブータン国王は、子どもたちにも描かれていく「龍」について「皆さんの中に人格という龍がいます。年を取って経験を積むほど龍は大きく強くなります。龍を養ってください」と投げ掛けていました。私たちも龍のごとく、たくさんの経験を糧に、より大きく、より強く、そしてたくましく成長しなければなりません。

迎えた平成24年が、皆さまにとつてさらなる成長の年となるようお祈り申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。

御前崎市長

石原茂雄